



横浜図書館 エントランス上部

## CONTENTS

### ● さようなら、横浜図書館 40年の感謝を込めて！

視聴覚資料室の歴史を振り返る ..... 2 頁

### ● 横浜図書館6月展示報告

没後 500 年 図書館資料でレオナルド・ダ・ヴィンチを観る ..... 6 頁

### ● 図書館の所蔵資料紹介

リュシアン・フェーヴル、アンリ＝ジャン・マルタン

『書物の出現』 ..... 7 頁

● 図書館からのお知らせ 今号の表紙／編集後記 ..... 8 頁

# さようなら、横浜図書館 40年の感謝を込めて！

## 視聴覚資料室の歴史を振り返る

横浜図書館の玄関に入って奥に進むと視聴覚資料室があります。そこには図書や雑誌以外の観る、聴くための図書館資料があります。現在、映像資料を観るためのブースがある場所にはかつて音楽を聴くための部屋「リスニング・ルーム」がありました。様々な種類の所蔵資料の一部はすでに再生機がなく、利用ができないものもあります。また、小ホールでは講演会や上映会などが行われてきました。閉館・改修によって、これまで図書館において文化を担う役割を果たしてきた視聴覚資料室にお別れを告げることになります。その活動や所蔵資料を振り返ります。

リスニング・ルーム  
調整室

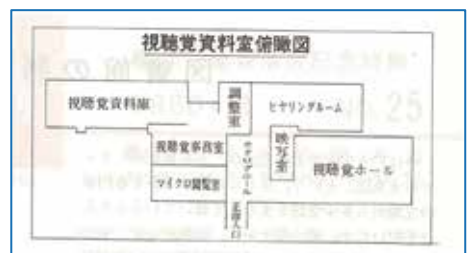


リスニング・ルーム



小ホール 映写室

『図書館だより』1980年7月号には、現在の図書館を建設する際に視聴覚資料室として想定していたものはマイクロ閲覧室のみであったと書かれています。しかし図書以外の多様化するメディアを図書館資料として不可欠なものとしてとらえ、基本的に図書形態を持つ資料以外をすべてこの視聴覚資料の範疇に入れるという方針のもと、視聴覚事務室、資料庫、マイクロ閲覧室、リスニング・ルーム（ヒヤリングルーム）、ホール、映写室などを正面玄関から入って奥まったエリアに配置し、落ち着いた雰囲気ゆつたりと各資料に接することができるように工夫した、と書かれています。



『図書館だより』1980年7月号より

## ◆BGM

図書館開館当時から何年かの間、玄関ホール、現グループ閲覧室、現リフレッシュ・ルームのエリアには視聴覚資料室のオープンリールテープからBGM(Background Music)を流していました。曲はクラシックの室内楽や軽音楽などで、当時図書館内でBGMを流すのは珍しかったそうです。

## ◆各種催し物

昼休みに視聴覚小ホールで行われた催し物は、LPレコードのコンサート、ビデオ映写会、35mmフィルムの名画上映会、一般教養をテーマとした連続講演会など、様々なプログラムが開催されました。

**視聴覚ホールへの誘い**  
—昭和60年度企画予定—

視聴覚資料室では図書加サービスの一環として、視聴覚資料を駆使して、数々の催し物を企画・運営してきました。最近の映写会「アントニー・ガウディー」は視覚でホールに入れない人が出たほどでした。本年度からは、旧ロッカーあとを展示コーナーとして使用し、催し物にそくした図書・写真などを展示することになりました。視聴覚資料の一層の利用を奨励します。本年度の視聴覚ホールの企画予定を以下に掲げます。6月までの前期分は既に実施しました。

1 ビデオ・アワー (月曜日 12:00)	
4月 特集「大学教育と大学を考える」シリーズ 3回	
5～6月 NHK海外ドキュメンタリー「アフリカ」8回	
10～11月 NHK特集「ループル米道徳」7回	
12月 シルクロード「マルコ・ポーロの旅」3回	
2 レコード・コンサート (水曜日 12:00)	
4月 新入生歓迎コンサート 4回	4月 新入生歓迎コンサート 3回
5月 ピアノ・ジャズ特集 4回	5月 J・Sバッハ生誕300年記念コンサート 4回
6月 カントリー・ミュージック特集 1回	6月 浮世集 4回
10月 ミュージカル音楽特集 5回	10月 女権ピアニスト特集 4回
11月 ビッグバンド・ジャズ特集 4回	11月 HLPビデオによる名曲アルバム 5回
12月 ポピュラー音楽リクエスト特集 3回	12月 クラシック音楽リクエスト特集 2回

### 『図書館だより』1985年7月号より

スペインの建築家『アントニー・ガウディー』の映写会が大盛況であったことが報告されています。著作権等についてはあまり厳格ではない時代で、録画したビデオの上映も行っていました。

当時ビデオデッキを持っている家庭は多くはなく、図書館で視聴できることは貴重でした。

## 2012年12月 映画『ショージとタカオ』上映会



図書館独自の企画だけではなく、視聴覚小ホールでは学部や研究所などによる企画も数多く行われてきました。2012年の上映会は神奈川大学法学会の主催による冤罪をテーマにしたドキュメンタリー作品の上映会でした。本作の監督井手洋子氏も来場され、興味深いお話を聴くことができました。

## 視聴覚資料の歴史を振り返る

### ◆スライドフィルム

視聴覚資料室の映写室にはスライド映写機があり、映写機の放射線状のトレーにスライドをセットして投影すると視聴覚小ホールスクリーンに映し出すことができました。映像を大きく映し大勢で観る方法としては、当時スライドフィルムがその役割の中心であったと言えるでしょう。

美術出版社『日本の民芸』  
1967年発行



### ◆ソノシート

ソノシートとは音の出る雑誌『ソノラマ』のためにフランスで開発されたビニール製レコードの商標名です。非常に薄いビニール製のレコード盤で安価なものでした。視聴覚資料室には世界の名曲集や語学資料のテキストとセットになったソノシートが今でも保管されています。



『中国語Ⅱ 入門編』  
1963年発行



ショパン『幻想即興曲』  
1963年発行

### ◆シングルレコード盤

45回転盤とも呼ばれ、両面に一曲ずつ収録されたレコード盤。所蔵枚数は多くはありませんが、視聴覚資料室の初期のコレクションに加えられています。写真のシングルレコードは河出書房出版の全集『世界の旅』の付録レコードで、世界の名曲が収録されています。

左から：ソビエト編  
ギリシア/エゲ海編  
アメリカ(2)カナダ編  
1967～69年発行



### ◆ビデオディスク(VHD)

ビデオディスクは現在、再生ができなくなりました。購入当時は再生機が生産中止になってしまうとは予想していませんでしたが、再生機器の変化によって利用に影響が生じてしまうのは、視聴覚資料の宿命でもあります。

当時は昼休みのビデオ上映会のために購入し、上映会では好評を博しました。



この大きなカセットを再生機にセットする

左から：ビートルズがやって来る  
・ヤアヤアヤ  
スティング/ブルータートルの夢  
世界民族音楽大系 9



### ◆LPレコードコレクション

コンパクト・ディスクが発売される前、LPレコードが録音資料の中心的存在でした。レコードはCDとは異なり、レコード針で溝をトレースし、そこに刻まれた信号を振動として伝えるという仕組みによるものです。本学図書館の視聴覚資料室ではクラシックやジャズなどの名盤コレクションを収集方針としていました。当時、小ホールでは昼休みに「レコードコンサート」が行われ、学生でにぎわいました。



上段左から：ショパン 24 の前奏曲 / アルゲリッチ, セントラル・パーク・コンサート / サイモン&ガーファンクル, アピィ・ロード / ザ・ビートルズ 下段：モーツァルト 交響曲第 33&34 番 / カール・ベーム, カインド・オブ・ブルー / マイルス・デイビス, ベートーヴェン交響曲全集 / カラヤン

改修後の横浜図書館では新たな視聴覚コーナーが設置される予定です。これらの資料も引き続き視聴覚資料として大切に保管される予定です。

# 没後 500 年

## 図書館資料でレオナルド・ダ・ヴィンチを観る

レオナルド・ダ・ヴィンチは 1519 年に 67 歳でその生涯を終えるまで芸術家、科学者、発明家として多くの仕事を残しました。《モナリザ》《最後の晩餐》などの作品を描いた人物として知られるレオナルドが残した絵画の点数は意外と少なく、現存するのは完成、未完成を合わせて 16 点ほどと言われています。一方、科学的な知識や様々な事柄を書きとめた手稿や素描などは約 4000 紙葉が残されていると言われています。図書館では 6 月 13 日から 7 月 10 日まで 1 F 展示コーナーで「没後 500 年 レオナルド・ダ・ヴィンチの手稿と素描」と題した展示を行いました。その一部を紹介します。

### 『解剖手稿』紙葉(複製)

レオナルドの人体構造に関する研究は 1480 年代後期に始まり、最終的に 30 体以上を解剖したと伝えられています。普段からあまり感情を表わさなかったと言われるレオナルドですが、解剖という行為は恐ろしくつらい仕事であり、知識を得るためには相当な忍耐力が必要だったと告白しています。

たとえ、この作業に情熱を注ぐとしても、おそらく君の胃が受け付けないだろう。よしんば、胃に異常を起こさなくても、見るだけに怖ろしい皮膚を剥いだ八つ裂きの死体と共に、夜の時間を仲良く過ごすことの恐怖におそらく参ってしまうだろう。

(解剖手稿 133recto の書き込み)



### パリ手稿(複製)

レオナルドはいつも小さな帳面を持ち歩き、素早くスケッチしたり、思い浮かぶことを書き留めたりしていたと伝えられています。フランス学士院図書館所蔵の『パリ手稿』12 冊のうちの『手稿 B』は、1487 年から 1490 年頃の最も早い時期の手稿で内容は多岐にわたり、都市設計案や教会建築、歯車、幾何学的図形、軍事機械などが精密な素描と共に記されています。



『パリ手稿 B』  
有名なイラスト「飛行機械」



パリ手稿 G

### 鏡文字



レオナルドの書いた文字は左右が反転し、鏡に映すと元の文字に見える「鏡文字」と呼ばれる。これはレオナルドが左利きであったことと関係が深く、一生を通じて反転した文字を書き続けた。

## リュシアン・フェーヴル、アンリ＝ジャン・マルタン

## 書物の出現

筑摩書房 1985年

請求記号：B022-1, 2-14 (横浜)

図書館の主役は何といっても本である。などと言うと、それはもう時代遅れだよと言われるかもしれない。先日「図書館ツアー」という施設案内を行っていたら新入生に「本、読みませんから」と言われた。今では情報を得るのも文字を読むのも本でなくても可能である。電子の本も当たり前になっている。冊子体のみを「本」と呼ぶ時代は終わった。しかし今、我々は「本」の歴史の中において、非常に貴重な時代に生きている。

現在のような本の形は紀元1世紀頃から始まり、2-4世紀頃にかけて主流になったとされている。それまで本は巻物の形をしており、古代のアレクサンドリア図書館には数十万巻の巻物が所蔵されていたと伝えられる。とにかく、本は現在のような冊子の形になってからおよそ二千年近く変わらなかったのだが、それが今変化しつつあるのだ。歴史上、本の形が変化するのを目撃した人類は、西洋で言えば古代ローマの人々と我々現代人だけである。

本が冊子の形になってからも材料、製本技術、価値などは変化してきた。特に大きな変化があったのは活版印刷術の発明である。それまで手書きで作られていた本が大量にスピーディーに生産できるようになり、情報の伝わる広さと速さが激変したことによる影響は計り知れない。印刷術は宗教改革を成功に導き、言語を変化させ、識字率を上昇させ、世界を変化させた。その変化はインターネットが現代社会を変えたスピードとは比べ物にはならないが、歴史を変えたと言われている。となれば現代に生きる我々は、1世紀以降の卷子本から冊子体への変化—本の形の変化—と15世紀の活版印刷術の発明による変化—情報伝達環境の変化—を同時に体験していることになるのかもしれない。

本書『書物の出現』はフランスの歴史家でアナール学派の創始者の一人リュシアン・フェーヴル(Lucien Febvre, 1878-1956)とその執筆プランと序文を託されたアンリ＝ジャン・マルタンによる書物研究の本である。タイトルの“書物”とは15世紀中頃に出現した活字本を指す。この創造と変革の



時代からその後三世紀を中心に、書物の変化が及ぼした様々な影響が書かれ、書物を取り巻く人々の姿を通して、当時の生活、労働や人々の感性が生き生きとしたイメージで浮かびあがる。

「本」とは情報ではない。「本」とは文字が書かれたモノだけでもない。それを知っている人々と図書館にとって、本書はなくてはならない本である。

(資料サービス課 荏原 直子)

# 図書館からのお知らせ

## 横浜・平塚共通

### ■ 夏季長期貸出について

貸出期間：7月8日(月)～9月12日(木)  
返却期限：9月27日(金)  
対象：学部生  
冊数：10冊

### ■ 一般公開休止について

前期試験実施に伴い、下記期間中の一般公開を休止いたします。

期間：7月1日(月)～7月31日(水)

### ■ 一斉休暇に伴う休館について

期間：8月11日(日)～8月17日(土)

## 横 浜

### ■ 夏季期間中の開館スケジュールについて

期間：8月1日(木)～9月19日(木)  
開館時間：9：30～18：00  
○3Fは閉室します。  
※日曜、祝日および一斉休暇期間は休館です。

## 平 塚

### ■ 夏季期間中の開館スケジュールについて

期間：8月1日(木)～9月19日(木)  
開館時間：9：10～16：50  
○視聴覚資料室は閉室します。  
※土曜、日曜、祝日および一斉休暇期間は休館です。

## 編集後記

今年2019年はレオナルド・ダ・ヴィンチの没後500年にあたる。横浜図書館でも6月から手稿と素描の展示を行った。多くの人が展示資料の魅力を感じてくれたようだ。

レオナルドは「万能の天才」と呼ばれる。天才という言葉から思い浮かべる人物像という、あらゆる事柄を瞬時に理解し、生まれながらにして優れた知識と才能を有するといったものしれない。確かにレオナルドもそのような人物であったらしい。しかし約4000紙葉が残るという手稿の書き込みからは天才という言葉だけでは表せない様々な面が見えてくる。

正規のラテン語教育を受けなかったことから自分を「無学な男」と称していたが、観察と経験によって自ら獲得した知識を誇りとしていた事。一体のみではわずかな知識しか得られないとして、恐怖と嘔吐に耐えながら十体以上の人体解剖を行ったという書き込み。流れる水の観察記録からはレオナルドがまるでハイスピードカメラのような眼を備えていたことがうかがえる。また、生涯名声の絶えることがなかったにもかかわらず尊大にならず、16世紀ヴァザーリの『ルネサンス画人伝』によると、その人柄は寛大で、快く人と会話をし、人を惹きつけたとある。

今に残る膨大な数の手稿や素描は受け売りの知識を嫌い、自らの観察と経験によって知識を得る事に生涯をかけた努力家の姿を伝えてくれる。

うわべだけの情報で知識を得たと思うのは愚かである。それに気付かず、得々として人に披露したとなれば、さらに愚かである。我々が万能の天才から学ぶべき事はいつの時代であれ、いかなる形であれ、自らの手で仕事を積み上げていく以外に実を結ぶ方法はない、ということである。

(N.E.)

## 今号の表紙



### 神奈川大学図書館 エントランス上部の眺め

図書館正面玄関に入ると吹き抜けの高い天井、正面の壁上部には募金の一部を使って作られたレリーフ（一色邦彦・小松崎邦雄作『青年の樹』）がある。窓からは美しい緑が見え、当日の新聞が読めるコーナーがある。堂々として暖かみと静謐さが同居し、時の重みと知性を感じさせるこのエントランスは改修工事後に親しみやすい場所に変わる予定である。